

# 活性化指針の具体化に向けて

## 1 各主体の役割

住民やNPO等の地域活動団体は、狭山ニュータウン地区の活性化に自分ごととして取り組むとともに、互いに連携し、それぞれの特徴やメリットを活かし、相乗効果が生まれる取組みを進めます。

事業者、大学は、住民やNPO等の地域活動団体が行う活性化に向けた取組みに連携・協力するよう努めます。

行政は、都市機能の整備充実や住民の日常生活を支えるサービスの提供など行政として求められる役割を担うとともに、関係する多様な主体に対して、意見交換の場の立ち上げや担い手の育成など活動促進に必要な支援を行うなど、連携・調整の役割を担います。

## 2 共通のプラットフォームの形成

本指針を具体化するためには、住民やNPO等の地域活動団体、事業者、行政、大学がそれぞれの責任と役割を担い進めていくことが基本となりますが、それぞれが個々に取り組むだけではなく、関係者間の連携を図り、共通のプラットフォーム（推進体制）のもとで取り組むことで、より効果的かつ効率的に推進することが期待されます。

そのため、将来像実現に向けた取組項目のうちから、狭山ニュータウン地区の魅力情報の発信やイベントの開催など活性化のモデルとなる取組みを、そのテーマに応じて多様な主体が協働して実施することで、共通のプラットフォーム（推進体制）の整備や活性化指針の具体化に向けた機運を高めます。

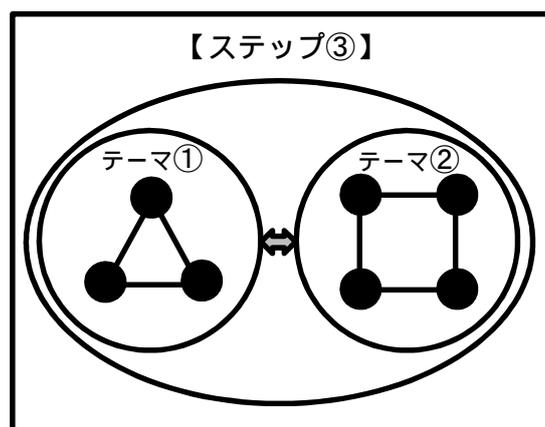
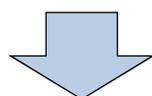
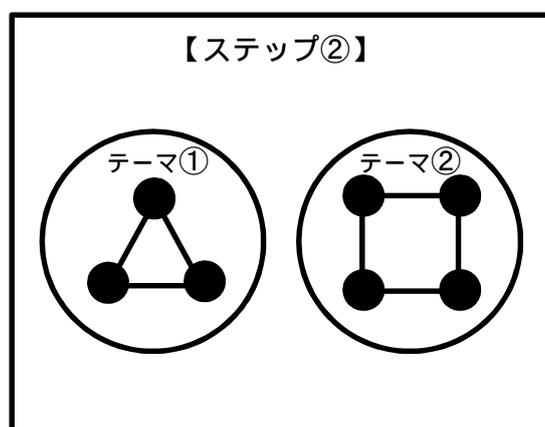
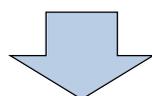
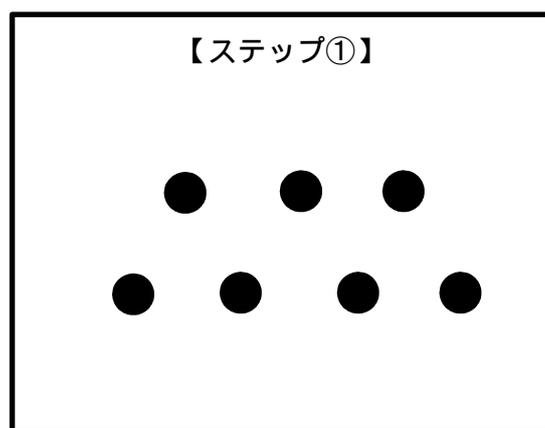
そうした取組みを進める中で、参加する住民や地域活動団体を増やし、連携を強めながら、共通のプラットフォーム（推進体制）の形成をめざします。

## 3 今後の取組みについて

行政の役割として、次年度以降において多様な主体が参画し、具体的な取組みについて意見交換を行う場の立ち上げをめざすとともに、担い手の育成につながる支援のあり方について検討します。

また、本指針の進捗状況の把握に努めるとともに、社会情勢の変化や住民ニーズ等の動向を勘案し、必要に応じて本指針の見直しを行うこととします。

## 【共通のプラットフォームの形成イメージ】



【共通のプラットフォーム】

は、住民・自治会等、NPO等の地域活動団体、事業者、行政、大学を表します。  
特定のテーマ毎に、多様な主体が連携して取組みを進める中で、そのつながりを強めながら、より大きな連携基盤として共通のプラットフォームの形成をめざします。

【多様な主体の連携による推進イメージ】

